

# テネモスキッチン 分かち合いノート



実践・発表 テネモスキッチン分かち合い会実行委員会

— 目 次 —

はじめに	1
●キレイ、美しさの本質は、どこにあるの？	2
●自然とは何か・・・自然を学ぶという意味	
『自然が教える農業のお手本』（テネモス創設者・飯島秀行著）より	4
●すべてが同じく生かされている	6
●イキイキした水に変化させる	8
●マナウォーターのメカニズム	10
●感動した水、振動した水は、きめ細かい	11
●だから仕組みをつたえていくんだよ	12
●醗酵水は腐らない	14
●サイズ選びに悩んだら	16
●塩素はとれますか？	17
●マナウォーターは何をキレイにするもの？	18
●腐る常識から、美味しくなっていく世界へ	
イタリアンダイニング「柊」岩澤和周オーナーの分かち合い	20
●自然とは何か、自分とはなにか・・・迷ったら手放せ	
テネモスホール展示のラジコン飛行機が語りかけてきたこと	21
あとがき	24

## ●はじめに

こんにちは。こちらの冊子を手にとっていただき、ありがとうございます。

テネモスキッチン分かち合い会では、  
「どんな現象にも、自然界のたったひとつのメカニズムが働いているという視点」  
を共に過ごすことをテーマにしています。

**目的は、無限の安心を自ら生み出すこと。**

たったひとつのメカニズム目線で見ると、全てに、調理の発酵の観方が応用できるということになります。

発酵しているときは、腐らない・・・とは？

**「発酵とは、エネルギーを引き込んでくる条件」**

育ったり、美味しくなったり、フグの毒も消えるらしいし、実際のところ本当に、  
発酵ってなんなのだろう？

出したものが還る。

やってみようと思った分だけ、間違いなく気づきが受け取れます。

それは、たったひとつのメカニズム。

毎年、紙面上で、過去一年分の振り返り会をしているのが、こちらのテネモスノートです。

今回は、水処理器「マナウォーター」の仕組みのお話を軸に、分かち合いしてみたいと思います。どうぞ、お楽しみください。

テネモスキッチン分かち合い会実行委員会 一同

## ●キレイ、美しさの本質は、どこにあるの？

-----  
マナウォーターは、なんでメンテナンスが必要無い  
のですか？  
-----



よく聞かれる質問です。  
なぜフィルターの交換は必要ないの？

確かに、いままでの考え方からすると、とても不思議です。  
フィルターでゴミを取り除く。そういう掃除、きれいにするやり方、考え方をし  
てきていたからです。でも、マナウォーターは違います。

単純には、フィルターでゴミをとってきれいにしている物ではないからです。  
だから、フィルターの定期交換は発生しないのです。そうすると、  
「では、どのように、水をきれいにしているの？」と聞かれます。  
水をキレイにする、という表現をするから、誤解を招くのかもかもしれません。  
元気のない水を、元気な水にする。死んでいる水を、生き返らせる。という表現の  
方が、適切なのかもかもしれません。

日本の水道水の水は、世界でもトップクラスのキレイですよ。透明だし、細菌  
についても、化学物質についても、ある一定基準をみたしています。

でも、その水道水を、マナウォーターなどで元気な状態にして、お花にあげると、  
さらに生育がよくなります。  
金魚の稚魚の水槽に直接いれても、元気に泳ぎ回っています。  
お料理が美味しくなります。排水口が汚れにくくなります。水道水をそのまま  
使うよりも、確かに違いが現れます。その違いは、お使いになる水道や、個人の感  
覚差によって、多少異なりますが、確かに違いが出るのです。

なぜでしょう？

そう、わたしたちのキレイと、大自然のキレイとは、少し違っているようです。  
どう観たらよいのでしょうか。

「キレイ」を「元気」と同じ意味にしてとらえてあげるとよさそうです。

これは、キレイかな？ は、これは「元気」かな？ となります。

これは、衛生的かな？ をこれは「元気」かな？ へ

これは、安心かな？ をこれは「元気」かな？ へ

大いなる循環をしている大自然へ、元気を出せば、元気がめぐってきますね。キレイで衛生的な水道水。でも水道水さんたち、長い旅路で、疲れているようです。

地球には、山があり、川があり、海に流れ、そして大気から雨へと水がめぐっています。そのめぐりの途中で、わたしたちは水を飲み、利用して、また川へ戻しています。その水を大自然は、常に、浄化をしてくれています。

浄化とは、「キレイ」にすることであり、またその本質は「元気」にしていることだと思います。なぜなら、どんなに見た目上きれいな水でも、生命を生かす水になっていなければ、地球上をめぐる水は、すべてを養うことができませんものね。

なるほど・・・浄化とは、疲れた状態を、元気な状態に戻すことだったのですね。

であれば「水を元気な状態にして使うと、体にも、環境にも良いよね」

そんな想いで、自然のメカニズムを真似て作ったものが、マナウォーターです。

「なんでメンテナンスが必要無いのですか？」

大自然のメカニズムを真似ているから・・・

「じゃあ、大自然のメカニズムってどんなものなんですか？」

・・・と、分かち合い会は続いていきます（笑）

## ●自然とは何か・・・自然を学ぶという意味

『 自然が教える農業のお手本 』（テネモス創設者・飯島秀行著）より

大自然という言葉は、何度も耳にしたことがあると思います。でも「それって何？」と問われたら、何と答えますか？

大自然のメカニズムとは、どのように観てとれるものなのでしょう。

すべてを生かしているたったひとつの仕組み。その力、はたらきは、すべての宇宙も、地球も、地球のなかにあるすべての生命も、同時に生かしている仕組みです。

---

自然とは、ナチュラルと言った言葉で表現をしますが、自然とは、どのようなものなのでしょうか。

自然とは、形をまとった宇宙法則の事です。

自然が作った形は、さまざまな形がありますが、どのような形ですら、形の中には、法則と言う生命が宿っているのです。自然とは、形体の事であり、その形体を動かしている力を、宇宙法則（エネルギー）と言います。自然は物質で、自然自身では、動けません。

自然と言う形体を動かしているのは、エネルギー（法則）なのです。自然は、自ら生きている物ではなく、宇宙法則によって生かされている、宇宙法則（エネルギー）の宮なのです。

宇宙法則の事を別名、生命とも言います。

生命は、エネルギーでもあるのです。

法則、生命、エネルギー、これらを、神、と表現しているのです。

言葉の発音は違いますが、言葉の意味は同じなのです。

神が作った宮は、台風や地震位では壊れ難いものです。

どのような理由で壊れ難いかと言いますと、自然は、常にエネルギーを呼び込ん

でいるからです。エネルギーを呼び込む事が出来ない時は、自然とて崩壊してしまいます。しかし、法則が作った神の宮である自然は、人間の手が入らない限り、簡単には壊れないのです。ですから、自然の山や海が、腐ったり壊れたりした試しがないのです。

森の木が寿命で枯れてしまえば、またその場から木が生えて来ます。

海が太陽で温められ酸欠を起こせば、台風などの自然の力によって、海に酸素を補充し、形体維持に転じます。

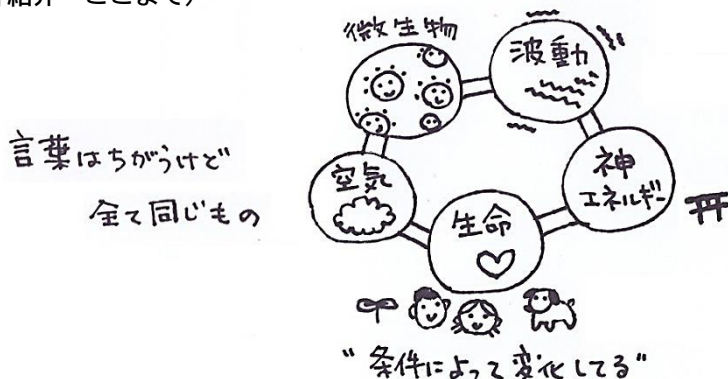


人間も動物も、死んでいく者もいれば、生まれて来る者がいるのと同じ事です。

自然と言う形体は、寿命と言う有限に定まっていますが、自然の形体中に存在する生命メカニズムは、無限に定められています。

自然を学ぶと言う事は、自然の形体を得る事ではなく、自然体が常にエネルギーを取り入れて、呼吸しているメカニズムを知る事です。

(書籍の一部を抜粋紹介 ここまで)



## ●すべてが同じく生かされている・・・大自然、いのちのメカニズム

「どんな現象にも、自然界のたったひとつのメカニズムが働いているという視点」とは、どんなものでしょう。

常に、そこからはじめます。

確かに、目の前には、いろいろな姿形、それぞれの名前、様々な方法、技術・・・あるけど、それをそのように表現している生かし主は、宇宙？ 無限？ 神様？ なんと言葉にするかは別にして、大いなる法則ですね。

それを、さかのぼって、さかのぼって、それを生かしているものは・・・

と問いかけると、ぼんやり感じられる「たったひとつの生命（いのち）」から全てを観る。

マナウォーターという、水処理器の話が、なぜ宇宙の仕組みという話になってしまうのか、普通に考えると、変ですよ。

でも、テネモスってそういう会社なんです。

テネモス・・・スペイン語で、「私たちは、持っている」という意味です。何を持っているのでしょうか。

無限性の宇宙に生かされている、無限性をもっている。

ひとことで言うと、生かされている。となってしまうのかもしれませんが。

そのいのち・生命の観点から、全てを観ていきます。

ごめんなさい。またマナウォーターから、脱線してしまいました。

でもね。マナウォーターを道具とみれば、そこまでですが、マナウォーターを、生命のメカニズムを学ぶ教材としてみれば、人生が変わります。



例えば、良い物質と悪い物質がある。悪いものは取り除いて捨てないといけない！ と思っていたけど、そうではないみたいだ。

悪い物質というのは、エネルギー不足・・・いわば、腹が減っていた状態だったのだ、と感じてしまったら、どうなりますか？

「ごはんを食べさせてあげればいいのか」と、解決方法、工夫の方向が分かります。

これが、物と物でも、人と人でも、同じなんだ！ と感じ始めたら、人生変わってきますよね。

人と物と、別物でしょ。と観れば、それもそこまで。

でも、人も物も、微生物。大きさが違うだけで、同じ微生物の集合体です。

言葉を変えれば、同じ素材でできている存在どうしです。

その素材とは、原子、電子、素粒子、いやいやもっともっと小さい存在。

同じ存在なのだから、会話も出来て当然。

会話が成り立てば、和気あいあいもしてきますよね。

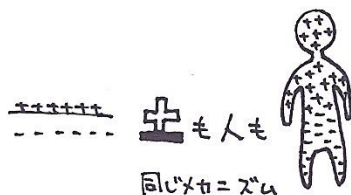
マナウォーターの水は、いのちを生かす水に変化させています。

メルヘンチックに言えば、地球上のいろんな場所のいろんな小人（微生物）さんたちに中に入ってもらって、音楽演奏をしています。

観客はお水です。

いろんな小人さんたちの奏でる振動・演奏に、お水さんたちが感動し、喜びや生命力がみなぎっている状態で湧いてくる、マナウォーター演奏ホールから出てくる、そんな感じでしょうかね。

なんとなくイメージできますか。



## ●イキイキした水に変化させる

楽しいですね。

話をもどして、マナウォーターのフィルター交換が要らない理由ですが、そもそも仕組み、考え方が違うからです。ホームページには、

=====

### <マナウォーターの特徴>

- ・マナウォーターの内部の振動圧力は、周辺大気の振動圧力より高くなるようなしくみになっています。

振動圧を上げることで、水を変化させます。

フィルター等で汚れをこしとる仕組みではありません。

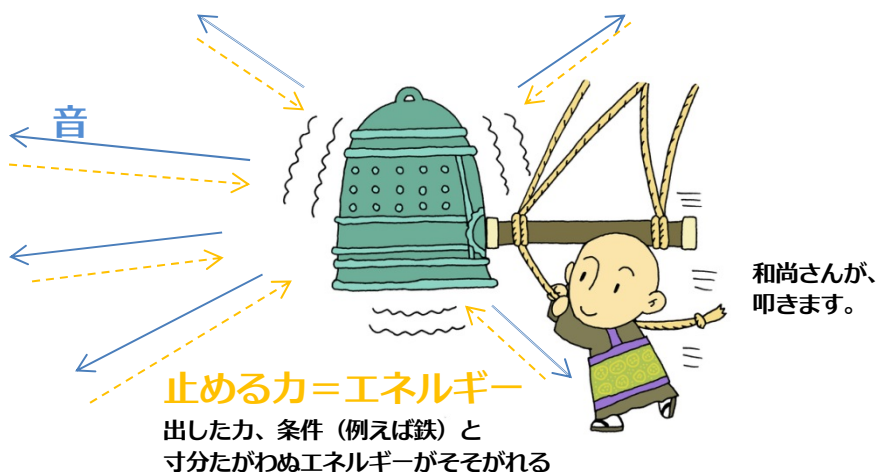
=====

と書いてあります。

変化を起こすイメージは、鐘で例えると、こんな感じです。

鐘を叩くと、音が鳴ります。

響いた振動を、止める力（中性力、中和力、調和力）が働き、それが音として現れています。空間が凜とした場に変化します。



マナウォーターの場合は、  
水流水圧で、鐘を叩いています。（鐘の音は、耳には聞こえませんが）  
鐘にあたる部分は、地球素材すべてを練り込むイメージで作った特殊セラミック  
スを利用しています。

響いた振動を、止める力が働き、それが水の味や匂いの変化として現れてきます。  
結果として、水が、イキイキした状態に変化します。



その音は、どんなでしょうか。・・・自然界のオーケストラ演奏。

これを水に聞かせてあげています。

どうですか。

水たちが、マナウォーターの中の演奏会で、感動して湧き出してくる感じ、伝わりますか。

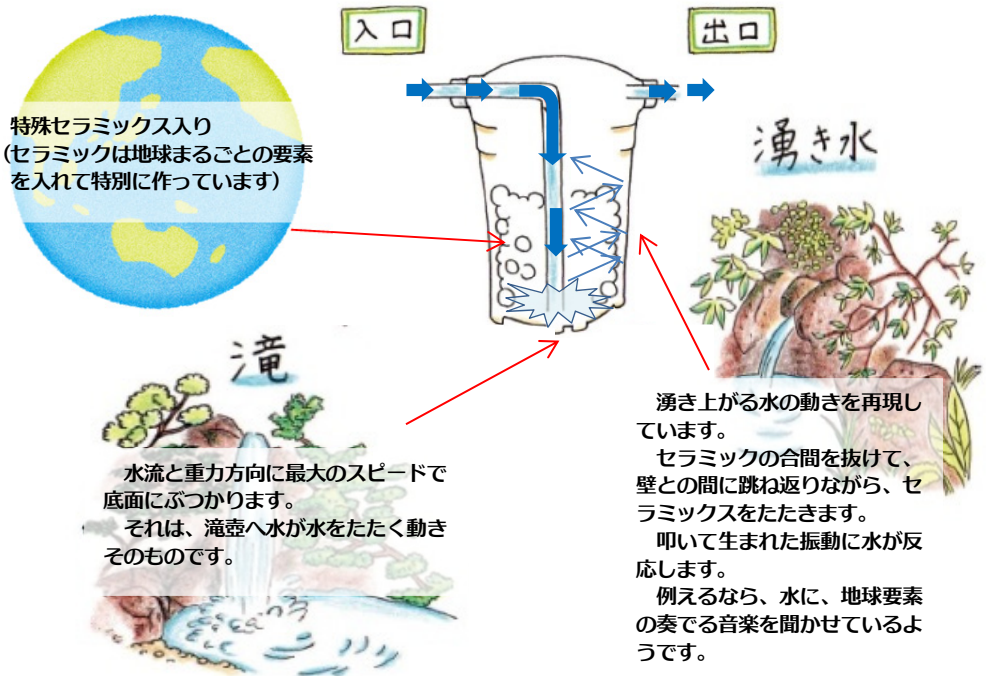
## ●マナウォーターという製品のメカニズム

マナウォーターは、内圧（振動）を高めて、外圧（振動）とのギャップを生じさせることで、自然の法則（中性力、中和力、調和力）を働かせ、水を変化させます。

### たったひとつの仕組み

内側の振動圧 > 周辺大気の振動圧 のとき、  
中和反応として、内側に気・エネルギーが注ぐ。

テネモスでは、大自然のメカニズムは、たったひとつの仕組みで営まれているという視点を仮説にして、さまざまな事案に対して、応用研究を行っています。



## ●感動した水、振動した水は、きめ細かい

マナウォーターの中の振動圧演奏会で、感動した水は、どのように変化しているのでしょうか。

見えないものを感じる時は、先ほどの感覚で、私たち人間ならどうかと観ます。心が満たされているときは、優しい気持ちになります。触れる人にも、物にも、優しくなりますよね。

それは優しい肌触り。イメージすると、きめ細かい仕上がりですね。

なのできっと、水も感動すると、キメが細くなるのだと思います。



例えば、雪玉が当たると、痛いです。

雪玉の小さいもの・・・パウダースノーは当たっても痛くないです。

痛い＝有害、痛くない＝無害と仮定するとキメを細かくすると無害化できそうです。



『毒物劇物取締法』の中では、ある一定数の半分が死んでしまう量を基準にその毒性を設定しています。

有害無害・物質の状態からイメージしてみる。

量の問題であって、質は問われていないのですね。これを、先ほどの雪玉と同じよ

うに考えてみるとどうなるでしょう。

きっと毒性の基準データが塗り替えられてしまうと思います。

実際に同様の考え方で、水や空気や土に処理してあげると、臭いや、味などで、その変化を感じることが出来るのです。

## ●だから、仕組みを伝えていくんだよ

「不安を招くものなら、初めから無い方がいい。

物に力があると思うと、必ず不安を招く。だから、仕組みを伝えていくんだよ。」  
とは、テネモス創業者の言葉です。

### 良いものを手に入れる = 不安を手に入れる

良い「物」を購入すると、もれなく不安がセットで付いてくるのです。

それは、壊れた時の不安。失うことへの不安。再度購入する資金の不安。品物がそのときまた手に入るかの不安・・・などなど。今はそんな気持ちはサラサラ無いよ、と言っても、物に頼る気持ちには、同時に無くなったときの不安が生じます。どうしたらよいのでしょうか？

では、その効果を生み出している仕組みを知っていたら、どうでしょう。

自分で作るから大丈夫。自分で作れなくても、仕組みは分かっているから、手伝ってもらえば大丈夫。同じ形のものが出来なくても、仕組みから考えれば、この形で、この方法で、代用できるはず。もしくはもっと良い物が作れるはず。

・・・こんな工夫の心が生まれてきます。

これが、本当のエネルギー。

この創造する想い、知恵、わくわく感、あとからあとから湧き出てきます。

無限のエネルギー、これこそフリーエネルギーですね。

この効果を生み出している仕組みとは、

宇宙にたったひとつのメカニズム。

物質と周辺大気との関係性、これひとつしかありません。

食べ物でも、飲み物でも、時間と共に気が抜けて美味しくなくなる、腐るというのは、この振動圧の関係が、内側<周辺大気 になっているからです。

この内側<周辺大気を、一般的な振動圧の関係性と捉えます。

そして、内側>周辺大気の、**逆転した振動圧の関係性にすると、絶対腐りません。**  
これを発酵状態ともいいます。

味噌、醤油を代表に、日本食の醗酵食品は、時間と共に腐るのではなく、美味しくなっています。

内側の振動圧が高く、逆圧がかかっているからです。  
ではなんで、内側の振動圧が高いと言えるのでしょうか？

例えばこんなイメージです。

味噌樽のなかで、大豆と糶が仲良く結婚して子供がうまれて、大豆糶、糶大豆と、家族がどんどん増えていく姿。生活に必要な水と塩は十分に用意されています。

結婚しているだなんて、何で分かるのでしょうか(笑)  
その証拠に、はじめはそれぞれの味がしていたものが、時間と共に、一体感の味に変化していきますね。

この家族がどんどん増えていく、味噌微生物がどんどん増えていく最中の動きそのものが、振動圧なんですね。  
微生物も、人間も、たったひとつの仕組みで生かされているのだから、一緒なはず。こんな見方をしています。



(写真)味噌作りの様子。たくさんの手で、ワイワイつくと、味噌微生物さんたちも一緒に醗酵促進するようです。



(写真)毎年行っている味噌作り。樽ごとに、作り方や、重石、蓋の方法を変えて、醗酵具合の観察をしています。上に塩を振る代わりに、酒粕を置く方法も、振動目線でみると、とてもおもしろいですね。

だから、仕込む量と樽の大きさの関係や、蓋や重石の具合も、味噌微生物の培養、発酵に大いに影響してくるのです。

## ●発酵水は腐らない

味噌を例えに使用しましたが、要は、マナウォーターは、発酵水をつくっています。気・エネルギーを引き付けてくる水です。腐らない水。

人間の体の7割は水といわれます。

体の中の水は、どのような水でしょう。腐る水？ いいえ腐らない水ですね。

でも、必ずすべての場面で腐らないかといったら、そうではありません。

私たちの目の前の現象は、誰が創っているのでしょうか。

そう、私たち自身です。

意識の醗酵している自分（振動圧の関係が、自分内側>周辺大気）なら、絶対腐りません。でも、その逆の状態では、当然結果は変わってきます。

絶対的に良い物質もなければ、絶対的に悪い物質もありません。

なぜ、そこまで言い切ることができるのか。

それは、同じものに触れたり、食べたり、なにかしても、その生命の反応は、同じではないからです。

絶対の悪や、毒があるなら、誰でも、何処でも、何者にも同じ有害性をみせるはずなのに、そうでないことは、経験済みと思います。

「個人差があるんだよ」の一言で片づけてしまうまえに、よく観てみると、無害化する力の個体差があるということになりませんか。

テネモスでは、この無害化していく方向の変化をナチュラル化と表現しています。

本当に良いものとは、なんでしょう？

私たちを生かしている仕組みに意識を向けること。

なぜなら、それは、生かされている力が、100%活かされるからです。



## テネモスキッチン分かち合い会の参加者さまからの、マナウォーター実体験お話

●マナウォーターの水がどんなふうに変化するかと聞かれると、自分自身でもなんとなくは分かるのですが、人に説明しようとする、正直難しいです。

でも、おもしろい出来事がありました。

三歳の娘と一緒に風呂に入ると、浴槽のお湯を「お母さん、お水飲んでもいい？」と聞いてきて、ガブガブ飲むんです。ちょっとびっくりしましたが、やっぱり小さい子は、直感で分かるんでしょうね。それで今度は、お父さんとお風呂に入ったときに、娘が同じことをしたんですね。彼が「浴槽のは汚いからだめだよ」を言ったら、娘が大泣きすることがあり、それから我が家では、浴槽のお湯は飲んでも良いということに、夫婦で話を同じにしました。

●こりゃ温泉効果が出るものなんですか？

私は腰を痛めてましてね、温泉に入ると、極端に体の反応が違うんで分かるんですが、マナウォーターのお風呂だと、温泉のときと同じ感じなんですよね。成分とかも変わっているのですかね。

→いいえ、活性化しているだけで、成分の数値的には、ほぼ変わり無いです。

●「アトピーの孫が、おばあちゃん家の風呂は痛くならない」って、毎日入りにくるんですよ。なので、娘のところにも付けてあげることになりました。

●「かーちゃん、これじゃ苦くて飲めないだろうよ」

「えー、いつも通りだよ。茶葉も、入れる量も」

んー。そうかい、ゴク。ありゃ、苦くないよ。こりゃ、どうしたことだい？

お茶の出が、えらい良いんだな。・・・マナウォーターとやら、詳しいことは分かんないが、確かに変化はあるみたいだな。



注意) 体験者の声をそのままお届けしています、個人差もあり、製品の性能を保障するものではありません。

## ●活水器マナウォーターのサイズ選びに悩んだら・・・

「どのサイズにしたらよいか」との声もよく届きます。

エネルギーが注がれると、チューリップはチューリップらしく、シクラメンはシクラメンらしくなります。

みえないエネルギーを、あえて見える物質で例えるなら、

-----

チューリップやシクラメンに、水（エネルギー）を

小さいコップで注いであげるか、

大きいコップで注いであげるか、

-----

の違いが、サイズラインナップの違いです。どちらも生かしていく方向です。

利用する水道水の量に対してはどうなの？ というご質問もいただきます。

元付けタイプでいうと、大、中いずれも、接続口径20mmと同じですので、同時利用の水量的には、全く同じです。

なので、使用量によっての、大、中の判断は特別必要ありません。

例えになりますが、大きな部屋でも、同じサイズの扉だと、一度には、同じ人数しか通れないのと同じイメージです。部屋のサイズが違うと言う事は、表面積が違うということです。

容積が大きいということは、振動している表面積が大きいということになります。大きい鐘は、鳴り出したら、止める力も大きくなりますね。

この大きい分だけ、力があります。

満員で同じ盛り上がりなら、中会議室と、大会議室、どちらの方が、パワーがあるか、みたいな捉え方です。キャンプとかで作るトン汁も、同じ材料で、同じ作り方がでも、大なべで作る料理はなんか美味しい・・・なんて経験ありませんか。

空気活性機のピッコロとキューブ、水処理機のマナウォーター。

テネモス製品の基本の考え方はすべて同じです。

## ●塩素はとれますか？

マナウォーターでは、塩素などをフィルターで吸着させて取り除くということはありません。

水処理の装置を検討するにあたって、悩まれてご連絡いただくこともあります。

---

ほかでは、有害物質を取り除くとあるのに、  
御社では、取り除くのではなく、変化させるとある。

---

どちらが正しいのか分からない、と。

そうなんですよね。マナウォーターは、物質を取り除くことで水を変化させるものではありません。どちらが正しいというものでもなくて、どちらも、大宇宙、大自然のなかに存在する現象です。条件設定だけの話です。

マナウォーターは、水道水を対象に開発されていますので、泥水などを入れれば、すぐに詰まってしまうます。

方法には、正しい、間違いはなく、場合によって、使い分けたり、合わせ使いをしたらよいだけです。

本来そこにある、自然治癒力、自然浄化力、それはどんなものなのでしょうか。  
自然生まれの形体は、人間もふくめて、中身の交換はしませんものね。

マナウォーターの開発者である創業者は、つねづね言うておりました。

「マナウォーターは何をきれいにするか知ってる？

あなたのところをきれいにする道具だよ。

この意味分かるかな？」

## ● マナウォーターは何をキレイにするもの？

私はテネモスに入った間もない頃の話思い出しました。  
テネモス創設者・飯島秀行との会話です。  
マナウォーターを目の前にして、



飯島：お前、これは何の装置か、知っているのか？

私：(自信満々に) 水をキレイにする装置ですよ！！

飯島：バカモン！！ これは水をキレイにする装置ではない。

お前の心をきれいにする装置だ。

私：・・・？

考えれば考えるほど、訳のわからない会話でした。

当時は、全世界の各家庭にマナウォーターが設置されれば世界中がキレイになっ  
ていいな。と素直に思っていました。

飯島：お前、結果しか見ていないから分からないんだよ。

私：(ちんぷんかんぷん)??

飯島：もっと、全体を観て考えるんだよ！

私：(考える振りをしながらも)???

飯島：汚れてなに！？ そもそも、大自然には汚れてあるのか？

私：無いですね。(まだピンときてない)

飯島：大自然には、汚れて無いんだよ！

汚れているのは、人間の心なんだよ！！ 分かったか、簡単だろ！？

もともと汚れてないならば、キレイにする必要は無いのに、汚れをキレイにする  
という、結果の世界ばかりをみていました。世の中のほとんどの人たちと同じく、  
目の前に現れた結果に対して、どーしようと思っていたばかりに、原因の世界を見  
落としていました。大事なのは、汚れをキレイにする(結果)ではなく、汚さない  
(原因) ことを、心がけることですよ。

その想いでマナウォーターを使えば、世界中が、あっという間に浄化されると思います。そのとき、マナウォーターという装置の役割が終わり、自分自身がマナウォーターだったという事（一体感）に気づくことでしょう。

\*原点に戻る

\*原因の世界を観て動く

・・・いやー、マナウォーターも、なかなか奥が深いですね。

そうそう、マナウォーターは自分自身だよ、なんて訳のわからないことを言っていたら、今度はシェフに変身しました。テネモスランドでは、2018年11月から、スリランカカレーのレストラン営業をしています。

（毎日営業ではないので、ホームページで営業日を確認してくださいね）



（写真）仕込みから、調理から、もちろんエネルギーチャージの実践、やってみよう！ の繰り返しです。

そもそも、料理人ではない私が、なぜレストランの営業をしているのか？

そして今、自分達で問いを投げかけます。

「テネモスキッチンのスリランカカレーは、何をやるもの？」

（お客さんに美味しいカレーを提供して喜んでもらうんじゃないの・・・）

いえいえ、自ら実践し、大自然の、宇宙の法則を実感するためのものです。

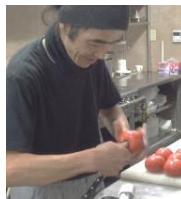
毎回実践です。同じ味は出しません。いや、出せませんか(笑

でも、十分にエネルギーチャージしたカレーを体験していただけます。

進化のプロセスもいっしょに味わっていただけたらうれしいです。

## ●腐る常識から、美味しくなっていく世界へ

分かち合い会で一緒にいる岩澤オーナー。毎回、ご自身の実践を分かち合いいただきます。その実践は、お料理にとどまらず、レストランの空間づくり、厨房の排水処理と、応用がひろがっています。今回は、マナウォーターを導入して体験したエピソードからの分かち合いです。



(前略)・・・水道水を変えたことからの激変体験は、「料理は腐る」という常識から、「料理はおいしくなっていく」ということでした。

ホテルのクック時代から、独立してからも、どんなに良い素材を利用して、必ず腐っていくという認識がありました。魚も、より鮮度の良いものをと、自ら釣りあげたものを調理したこともありましたが、どうしても臭みが出てしまうのです。

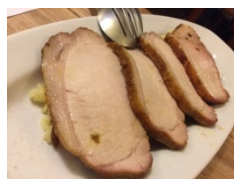
それが、マナウォーターと出会ってから、激変しました。えーっ、料理は時間をかけて置いていくと、美味しくなってしまうの！？ そんなことあるの？ 発酵、腐らない世界が、調理に応用できるの！？

調理の世界を30年以上やってきて、初めて知る世界でした。

体験していくうちに、分かってきました。

どんなに活きの良い魚でも、元気の無い水で洗うと、活きの良さが失われて臭みが出てくること。反対に、元気の良い水では臭みがでません。

だから、子供たちも魚料理を喜んで食べます。奥さん方は、魚料理は苦手とか、いままで料理が苦手と思い込んでいただけで、水を変えるだけで、料理が変わります。



(写真) お肉の下処理も同様に、発酵です。酵素水をスプレーしてあげることで、冷蔵庫保管中に、自然に熟成させていきます。

マナウォーターを使い始めてから、洗い物の手荒れが全くなくなりました。

これまで、いろいろな洗剤で一生懸命掃除していたレストランの空間は、日に日に崩れていくのを目の当たりにしていました。でも、マナウォーターを使い始め、エネルギーをそそぐという考え方で、掃除の仕方を変えてから、トイレの床タイルも、テーブルも、ありとあらゆるところの様子が逆転していきました。

微生物を殺すという掃除の方向性から、微生物を増やしていくという方向性へ。

そのように変えた厨房で生み出される料理は、当然のごとく変わっていきますよね。

それは、お客様のお会計のときの様子や、厨房へ戻ってくるお皿たちが教えてくれました。



(写真) 水に力(要素)がないと、どんなに沸かしても、パスタの本来の茹であげにならない、とのこと。

人間も、体内の微生物がしっかり元気に動いていれば健康を保ちます。

怪我ひとつとってみても、治りやすい人、そうでない人、体内の微生物の元気具合が分かります。その状態は、洗い物、調理にも、同じように影響を及ぼします。なので、私の体験はすべて同じになるものではないです。あくまで参考です。

ただ間違いなく言えるのは、育てる意識の掃除をすると、元気があふれ、物質は長持ちし、スタッフの元気も変化し、本質の元気をチャージしたいと本能的にお客様が来店くださり、という変化を体験し、今なお現在進行形で実践体験中ということです。その中で感じたのは、掃除に使う雑巾は、本当の意味は、「増菌」だったのねということです。



(写真) 生クリーム嫌いの人の常識がひっくり返る生クリームフルーツサンド。これもぜひ、食べて頂きたい一品。

酵素水なども併用し、微生物を培養する、育てていく意識の共鳴、この応用を効かせた、マナウォーターに空気を通すバンブーの魅力。お野菜、果物の下ごしらえの話、料理と洗濯も同じ目線でみると、こんなに応用できるという衣類のはなし。お伝えしたいことはまだまだあります。例えば・・・(20180910講演より抜粋ここまで)

岩澤オーナーは、マナウォーターを「微生物波動がいつぱいの水に変化する」とも表現されていました。毎日、お料理の食材という小人さんたちと、お鍋や、フライパンという音楽ホールで、演奏会を開いていらっしゃるんですね。

だから、どんなふうにも小人さんたちをおもてなしすると、良い音楽=よい味・エネルギーがうまれてくるか、実感されているんでしょうね。

## ●自然とはなにか。自分とはなにか・・・迷ったら手放せ

たったひとつから観るといふことの応用力は、無限大です。今ここにも、大自然の、宇宙の法則が生きています。

というか、宇宙の法則が効いていない処など無いですね。



(写真) テネモスホール展示のラジコン飛行機

テネモスの創設者、飯島秀行は、無類のラジコン飛行機好きでした。

幼稚園に入る頃から、飛行機を作って飛ばし、小学生時代には、大人にも教えていたほど。学校をさぼって、自宅のトイレで飛行機作りをしていて、母親にみつかって・・・なんて話は、講演会でも聞かれたことがあるかもしれません。そんな彼ですから、飛行機の操縦免許も取得して、実際に飛ぶ体験もしています。自ら操縦する飛行機で遊覧飛行デートに誘ったというロマンチストな面もあったとか。

飯島さんのつくるラジコン飛行機は、スローフライトで、通常では考えられない飛び方をします。トンポのように、空中で止まったり、進んだり、バックしたり。

不思議かもしれないけど、トンポと同じ仕組みであるなら、どうでしょう？

そんな飯島さんのつくった飛行機を、一度だけ操縦させてもらったことがあります。その時、操縦するアドバイスとして、



(写真) 同じ飛行機胴体に、翼を何種類もつくり、付け替え、飛び方の違いを確認していた。

「コントロールが効かなくなったり、上手く操縦できないと思ったら、コントローラーから手を放しなさい」と言われたんですね。

「どんなに強風でも、飛び損ねた鳥は見たことないでしょ。翼に風をうけると、振動が起こって、浮かび上がるようにできているからなんだ。

同じように作った翼の飛行機も、同じさ。

手を離せば、勝手に態勢を整える。さあやっ

てみな」と、手渡された操縦機をもって飛ばした感覚は、今でも忘れません。

そして今、その実感が、法則の気づきを助けてくれます。



そうか！ 宇宙は、すべてを完全完璧につくってあるんだ！！

鳥だってそうだ！・・・ということは、人間も、宇宙が生み出した完全完璧な存在。悩んだときは、全てを手放して、ゆだねていけば、たたきつけられるようなことはなく、自然と立ち上がっていけるんだ。

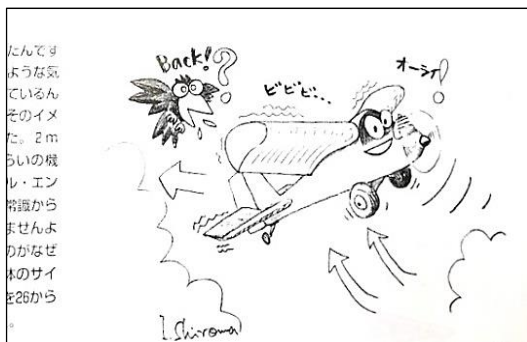
あれがいいとか、これがいいとか、思い込みをつかんで執着している分、飛び方が、生き方が、不自然になって、墜落しそうになっているんだな。

なるほど、・・・『迷ったら手放せ』か。

\*

\*

\*



左側のイラストは、『ラジコン技術』（2004年1月号）の雑誌からの抜粋です。現在でも明確には解明されていない、飛行機の浮力、飛ぶ原理を、飯島秀行の仮説飛行理論として、イラストで解説されています。

右側は、熱気球ですね。気球の中の空気をバーナーで温めて、浮力を得ています。

全く別モノのように見ていたけど、空気の振動圧の内側と外側の差・・・という視点で観ると、そこにある仕組みは、同じように観えてきます。振動の高いほうへ、中和反応として空気が集まってきて、変化（飛ぶ、浮かぶ）していく姿。

あれ！？ マナウォーターも同じかも・・・と観えてきたら、「たったひとつの法則」って、これかも！！ とワクワクしてきませんか！？

ではまた、リアル分かち合い会でお会いしましょう。

## ●あとかき

『フリーエネルギー』（飯島秀行著）の冊子の水の章に、

---

水と言うのは、一言で言い表すことはできません。

あえて言うなら、全て、としか言えないのです。

全ての形を作っているのが、水、だからです。

---

と書いてあります。

動物、植物、皆が、水無しでは生きていくことは出来ません。

飲み水、料理、洗濯、掃除、お風呂など私たちの生活からも、切っても切り離すことが出来ません。

この大切な水が永続的に使い続けられるように、出来るだけ汚れを出さないように、自然に近づけるようにしていかなければならないと思います。

ある方が、「テネモスの在る新井宿は、まさに新しい井戸の宿なんですよ」と言ってくださいました。

なるほど確かに、「新しい、水を生み出す仕組みを、宿す場所」とも読めるこの場所で、自然をお手本にして生まれたのが、マナウォーターです。

これからも、常に原点をみつめながら、発信し続けて行きます。

最後に、こちらの冊子を手にとっていただき、このご縁に、心より感謝いたします。

飯島早苗

## ●著者

### テネモスキッチン・体験分かち合い会実行委員会

飯島早苗 (いいじま・さなえ)

株式会社テネモスネット 代表取締役

2016年9月より、代表就任。創設者の理念を伝える場としてテネモスランドを運営。



### マデュカ・バンダラ

テネモス・ランカ代表

スリランカ出身。2009年より5年間、テネモスネット社スタッフとして研鑽。2014年帰国、独立。2016年3月よりシニアアドバイザーとしてテネモス運営へ参画。



### 岩澤和周 (いわさわ・かずのり)

イタリアンダイニング「終」代表

栃木県鹿沼にて営業。調理の探求から、テネモスに出会う。たったひとつの法則・エネルギー視点で、調理実践研究を重ねている。



テネモスキッチン・コーディネータ

菅原克行 (すがわら・かつゆき)

えばあプロデュース合同会社 代表

一級建築士。原発事故をきっかけにテネモスに出会う。2014年秋より、テネモス製品の製造業務に参画。一般財団法人テネモス国際環境研究会 評議員 (2012年10月より)



## テネモスキッチン・分かち合いノート (vol. 3) 2019年版

2019年6月9日 初版発行

企画制作 株式会社テネモスネット  
〒333-0826 埼玉県川口市新井宿 86-6  
TEL. 048-281-0038  
<http://shop.tenemos.jp/>

定 価 200円

(テネモンおもしろ動画配信中！)



笑いながら、学べてしまう！？  
手作り安心・ヒント満載の話題作  
陽気なリズムに合わせて20秒・・・  
テネモン劇場  
どうぞお楽しみください♪



テネモンおもしろ動画

🔍 検索

